

JALOS ニュース

Japan Lubricating Oil Society

2011 9月号

「現下の円高が産業に与える影響に関する調査」の結果の公表について

経済産業省は、平成 23 年 9 月 1 日付けで「現下の円高が産業に与える影響に関する調査」の調査結果を公表しました。その概要を紹介します。

本調査は、今般の急激に進行している円高によって、我が国企業にどのような影響が生じており、我が国企業はどのように対応しているか、さらに、政府に求められる対策は何かなどについて、調査した結果を取りまとめたものです。

1. 調査の概要

調査期間：平成 23 年 8 月 22 日（月）～平成 23 年 8 月 26 日（金）

対象企業：大企業製造業 611 社

中小企業製造業 83 社、非製造業 10 社

調査項目：想定為替レートと 1 円円高が進行した場合の営業利益の減少額

現下の円高の企業収益への影響と企業の対応

諸外国による日本企業誘致の現状

政府に求める対策 など

目次

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 「現下の円高が産業に与える影響に関する調査」の結果の公表について | 5. JALOS 講習会 開催のご案内(1)(2) |
| 2. 国が保有する化学物質の有害性情報等の公表について | 6. 潤滑油需給統計 |
| 3. 「2011 JALOS 環境フォーラム」開催のご案内 | 7. 潤滑油製造業近代化事業
潤滑油の品質・認証に関する調査研究事業
潤滑油の品質に関する調査研究 - その 1 |
| 4. 「潤滑油製造業地方研修会」開催のご案内 | 8. 協会の動き |
| | 9. 今後の予定 |

社団法人 潤滑油協会

URL <http://www.jalos.or.jp/>

2. 調査結果の概要

(1) 円高の影響～大企業・製造業編～

1 ドル 76 円の為替レートで企業の 15%が深刻な（営業利益対前年比 20%以上の）減益。上記レートが半年以上継続した場合には、32%が深刻な減益。

1 ドル 76 円の為替レートへの対応策は、「経営努力、製品設計変更等によるコスト削減」が 67%と最も多く、「為替予約によるリスクヘッジ」が 65%を占める。1 ドル 76 円の為替レートが半年以上継続した場合には、50%超が原材料や部品の海外からの調達量を増加させるとし、46%が「生産工場や研究開発施設の海外移転」と回答。

1 ユーロ 110 円の為替レートで企業の 9%が深刻な（営業利益対前年比 20%以上の）減益。上記レートが半年以上継続した場合には、12%が深刻な減益。

1 ユーロ 110 円の為替レートへの対応策は、「為替予約によるリスクヘッジ」が 49%と最も多く、「経営努力・製品設計変更等によるコスト削減」が 43%を占める。1 ユーロ 110 円の為替レートが半年以上継続した場合には、40%超が原材料や部品の海外からの調達量を増加させるとし、31%が「生産工場や研究開発施設の海外移転」と回答。

諸外国からの海外進出の誘致については、18%の企業が「受けている」と回答。

企業が政府に対して要望する対策としては、「法人実効税率の引き下げ」が 87%と最も多く、「継続的な為替介入」が 63%、「経済連携の推進」が 58%、「安定的な電力供給」が 50%、「生産工場や研究開発施設に対する補助」が 47%を占めている。

(2) 円高の影響～中小企業編～

現在の円高水準では、減益となる企業が 7 割強に上り、半年継続した場合には、減益を予想する企業が 8 割を超える。

主な減益の原因として、値下げ要請、他国企業との競争激化等があげられている。

現在の円高水準での対応策としては、経営努力等によるコスト削減や取引の円建て化で、対応を考える企業が多いが、為替水準が継続した場合には、海外生産比率の増加を検討する企業が増える。

外国からの海外進出の誘致をうけている企業もある。国別では中国が多く、アジアを中心に日本企業への働きかけがある。

3. 別添資料

今回、公表された調査結果は下記資料のとおりです。

資料 1 「現下の円高が産業に与える影響に関する調査（大企業・製造業編）」

<http://www.meti.go.jp/press/2011/09/20110901003/20110901003-2.pdf>

参考 2 「現下の円高が産業に与える影響に関する調査（中小企業編）」

<http://www.meti.go.jp/press/2011/09/20110901003/20110901003-3.pdf>

国が保有する化学物質の有害性情報等の公表について

厚生労働省、経済産業省及び環境省は、平成 23 年 9 月 9 日付けで「国が保有する化学物質の有害性情報等」について公表しました。その概要を紹介します。

平成 23 年 4 月 1 日付けで化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の一部を改正する法律（改正化審法）が施行され、今後は改正化審法のもとで、国はスクリーニング評価及びリスク評価（スクリーニング評価等）を段階的に実施し、化学物質のリスクに応じた規制措置を講ずる予定となっております。

こうしたスクリーニング評価等には化学物質の有害性情報等 が不可欠であり、有害性情報等がない場合、スクリーニング評価では、最も厳しい有害性クラス（デフォルト）を用いた評価が実施される予定となっております。

今回の国が保有する化学物質の有害性情報等の公表は、現時点における国の有害性情報等の保有状況を明らかにすることで事業者と国が既に保有する情報との重複を避けて情報収集するための資料となっております。

なお、本資料は整理できたものから順次公表され、公表済みの資料についても随時情報の追加、訂正等の差し替えを行う予定となっております。

今後化学物質に関する情報を収集される際、及び保有する有害性情報等を任意報告する際に、本資料を活用ください。

有害性情報等：ここでは、人健康に係る有害性、生態に係る有害性、生分解、生物濃縮性及び物理化学的性状を指す。

- 公表資料 -

1. 国が保有する化学物質の有害性情報等

資料 1：国が保有する化学物質の有害性情報等（化学物質別の一覧表）

<http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/pages/img/Siryoun1.xls>

資料 2-1：人の健康に係る有害性情報（*追って公表予定）

資料 2-2：生態に係る有害性情報（*追って公表予定）

資料 2-3：生分解

<http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/pages/img/Siryoun2-3.xls>

資料 2-4：生物濃縮性（*追って公表予定）

資料 2-5：物理化学的性状（*追って公表予定）

2. 参考資料：

参考 1：資料の見方について

<http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/pages/img/Sankou1.pdf>

参考 2：国への有害性情報等の報告

<http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/pages/img/Sankou2.doc>

- 問い合わせ先 -

厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室（TEL：03-5253-1111（内線：2427））

経済産業省製造産業局化学物質管理課化学物質安全室（TEL：03-3501-0605（直通））

環境省総合環境政策局環境保健部企画課化学物質審査室（TEL：03-5521-8253（直通））

「2011 JALOS 環境フォーラム」開催のご案内

先月号でもお知らせしましたが、当協会では潤滑油環境対策事業（資源エネルギー庁補助事業）の一環として、「2011 JALOS 環境フォーラム」を下記の要領にて開催することになりました。開催案内、参加申込書等を同封しておりますので奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。また当協会ホームページにも、申込み用紙付の開催要領をPDFファイルにてご用意致しますのでこちらも御利用下さい。

日 時：平成 23 年 11 月 18 日（金）

（受付開始時間：13:20 予定） 受付開始時間前にご来場戴いても会場には入場できません

会 場：笹川記念会館 4F 第 1、2 合同会議室（鳳凰の間）

（〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25）

講 演：

「自動車用電装部品の環境対策 - 潤滑剤の取組み - 」

株式会社デンソー 材料技術部

担当次長 池島 昌三 氏

「油圧の省エネルギー化動向と油圧作動油の省エネ効果評価方法の検討」

株式会社 タカコ 開発部 技師長

工学博士 小曾戸 博 氏

（潤滑油省エネ・基油再生分科会副主査）

「風力発電用潤滑剤」

出光興産株式会社 営業研究所

主任研究員 藤浪 行敏 氏

定 員：150 名

参加費：無料（事前登録制）

お問合せ先：社団法人潤滑油協会・事業部

TEL047-433-5181 FAX047-431-9579

協賛予定（五十音順）：

- ・公益社団法人石油学会
- ・全国オイルリサイクル協同組合
- ・全国工作油剤工業組合
- ・全国石油工業協同組合
- ・日本グリース協会
- ・社団法人日本トライボロジー学会



詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

「潤滑油製造業地方研修会」開催のご案内

潤滑油製造業近代化事業（資源エネルギー庁補助事業）の一環として、潤滑油製造にかかわる方々を対象とした「潤滑油製造業地方研修会」を下記の要領にて開催することになりました。関係各社には既に開催案内、参加申込書等をお送りしておりますので奮ってご参加下さいませようお願い申し上げます。また当協会ホームページにも、申込み用紙付の開催要領を PDF ファイルにてご用意しております。

「潤滑油製造業地方研修会（神戸）」

日 時：平成 23 年 11 月 25 日（金）（受付開始時間：10:00 予定）

会 場：神戸国際会館（兵庫県神戸市中央区御幸通 8 丁目 1 番 6 号）

講 演：自動車用高強度鋼板と成形技術の開発動向と展望（仮題）（10：30～12：00）

JFE スチール株式会社 スチール研究所

薄板加工技術研究部 副部長 山崎 雄司 氏

アジアにおける化学物質規制の最新動向（仮題）（13：00～14：30）

社団法人産業環境管理協会

技術参与 松浦 徹也 氏

次世代パワートレインの紹介 - SKYACTIV の技術コンセプトについて（仮題）

（14：40～16：10）

マツダ株式会社 パワートレイン開発本部 主査 鈴木 敬 氏

定 員：30 名 参加費：無料（事前登録制）

「潤滑油製造業地方研修会（名古屋）」

日 時：平成 22 年 12 月 2 日（金）（受付開始時間：10:00 予定）

会 場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）（愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）

講 演：BCP 対策と自分の命を守る耐震固定方法の検討（試験室の耐震化）（仮題）

（10：30～12：00）

有限会社キョウエー 代表取締役 加藤 恒雄 氏

新規くし型ポリマー粘度指数向上剤について（13：00～14：30）

エポニックデグサジャパン株式会社

石油添加剤部 OEM マネジャー 内藤 康司 氏

国産旅客機「MRJ」を世界の空へ（仮題）（14：40～16：10）

三菱航空機株式会社

営業部 部長 岩佐 一志 氏

定 員：30 名 参加費：無料（事前登録制）

【お問合せ先】

社団法人潤滑油協会・事業部

TEL047-433-5181 FAX047-431-9579 URL <http://www.jalos.or.jp/>

詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

JALOS 講習会開催のご案内（１）

先月号でもお知らせしましたが、下記の要領にて、JALOS 講習会「初級コース・車両用潤滑油」及び「初級コース・工業用潤滑剤」を開催致します。車両用潤滑油の基礎知識の修得、並びに工業用潤滑剤の日常管理に関する基礎的事項の習得のため、多数の方が受講されるようご案内申し上げます。

初級コース・車両用潤滑油

日 程：平成 23 年 12 月 1 日（木）
10:30 ~ 17:00
会 場：化学会館（JR 中央線・地下鉄丸の内線
御茶ノ水駅）

対 象 者：・潤滑剤関係業務の方
・車両用潤滑油に興味をお持ちの方
項 目：講義
「ガソリン・ディーゼルエンジン油」
「駆動系潤滑油（ATF、ギヤ油等）」

定 員：40 名（先着順）

受 講 料（テキスト代、消費税を含みます。）：

正 会 員	¥7,000
特別・賛助会員	¥8,500
一 般	¥10,000

初級コース・工業用潤滑剤

日 程：平成 23 年 12 月 14 日（水）、15 日（木）
会 場：化学会館（JR 中央線・地下鉄丸の内線
御茶ノ水駅）

対 象 者：・潤滑剤関係業務の方
・工業用潤滑剤に興味をお持ちの方

項 目：講義
「工業用潤滑油と管理」
「金属加工油と管理」
「グリースと管理」

定 員：20 名（先着順）

受 講 料（テキスト代、消費税を含みます。）：

正 会 員	¥16,000
特別・賛助会員	¥21,000
一 般	¥26,000



【受講申込み先および問合せ先】

社団法人 潤滑油協会・JALOS 講習会担当

TEL 047-433-5181 FAX 047-431-9579 URL <http://www.jalos.or.jp/>

詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

JALOS 講習会開催のご案内（２）

平成 24 年 1 月 19 日（木）20 日（金）の 2 日間にわたり、下記の要領にて JALOS 講習会「体験コース・油中異物分析と診断事例」を開催致します。

本講座は、潤滑剤が劣化する原因の一つである混入物因子に着目し、生産設備で使用されている油中の異物分析技術、解析方法について診断事例を交え、紹介致します。また学習効果をより高めるため、実際にフェログラフィー分析、ミリポア分析、微粒子測定及び不溶分の状態観察等の分析試験を体験していただき、有機的に講義を展開します。

日 程：平成 24 年 1 月 19 日（木）、20 日（金）

会 場：社団法人 潤滑油協会 技術センター（千葉県船橋市）

対 象 者：日常業務において潤滑剤に興味をお持ちの方。

潤滑管理の実践を目指すユーザーの方及びサポートされるメーカーの方。

項 目：＜第 1 日目・午後＞

設備管理における油中異物管理 油中異物混入油の感応検査の体験

＜第 2 日目・全日＞

設備故障の解析事例 測定、解析及び診断方法の実習

定 員：18 名（先着順）

受 講 料（テキスト代、消費税を含みます。）

：正会員 ¥16,000 特別・賛助会員 ¥21,000 一般 ¥26,000

講 師：塙 征次郎 氏 コスモ石油ルブリカンツ株式会社 販売部 統括グループ
販売サポートグループ 専属コンサルタント 講師
（元日産自動車(株)生産技術本部 副工師）

当協会 技術センター職員

【受講申込み先および問合せ先】

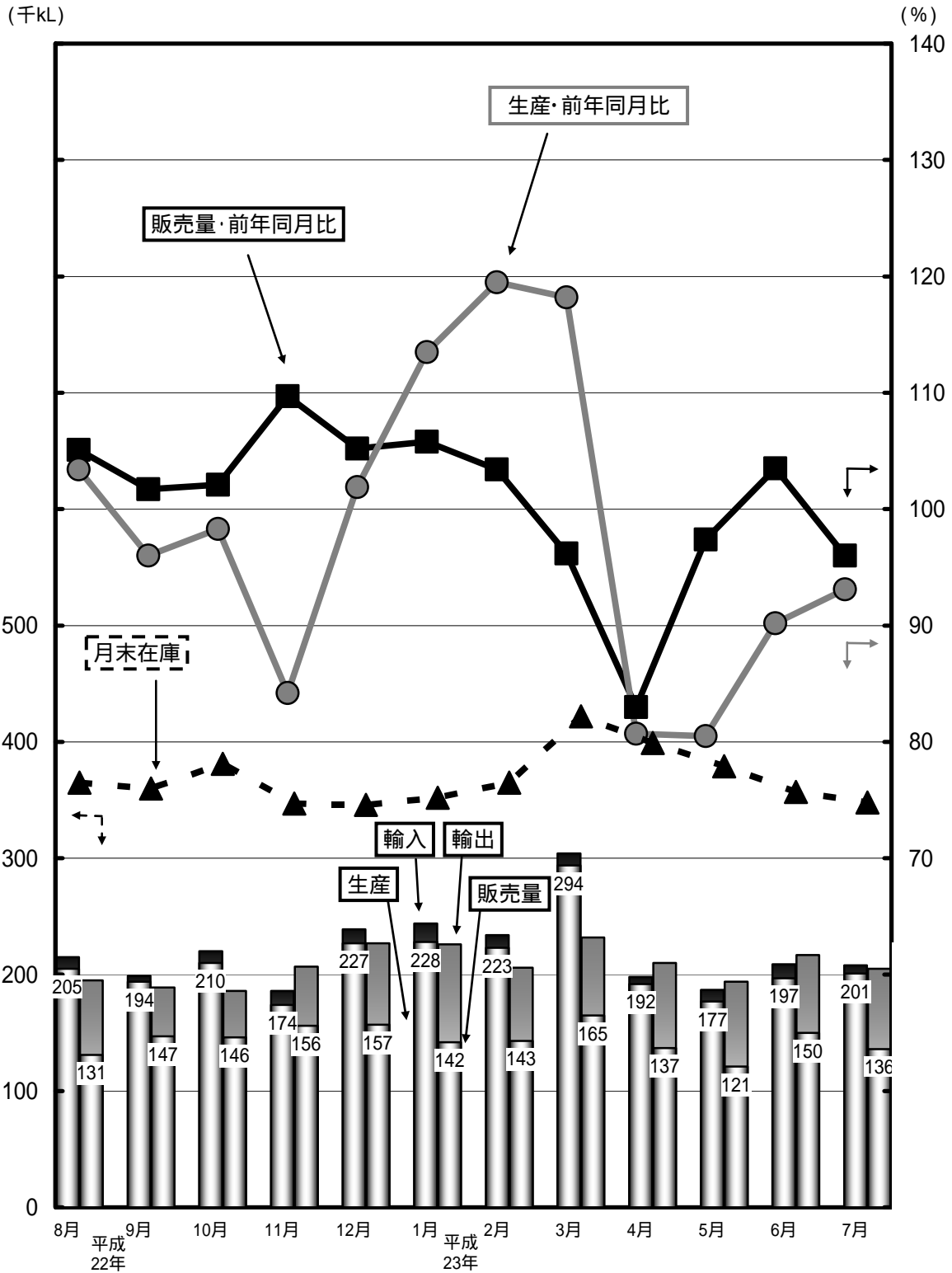
前掲



詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

潤滑油需給統計

7月の生産量は201千kLで前年同月比で6.9%下回り、販売量は136千kLで4.0%下回った。



出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報（注：棒グラフ上段の数字は生産量、下段の数字は販売量）

潤滑油需給統計（時系列表）

（単位：kL）

年 月	生産 Production	輸入 Import	国内向販売 Domestic sales	輸出 Export	在庫 Inventory	販売部門 (製造業者・輸入業者) Sale section (Manufacturers and importers)	
						生産部門 Production division	
平成20年	2,636,357	75,751	1,888,509	628,366	402,326	214,700	187,626
21	2,242,060	86,409	1,586,824	665,326	358,204	194,419	163,785
22	2,537,485	110,609	1,756,400	753,598	346,089	182,877	163,212
平成21年度	2,434,351	100,279	1,680,913	771,786	341,100	179,429	161,671
22	2,646,180	117,292	1,762,495	768,345	422,075	248,090	173,985
平成22年4～6月	676,516	24,658	434,400	217,025	356,849	182,030	174,819
7～9	614,417	22,055	418,517	175,804	360,466	189,989	170,477
10～12	610,342	33,811	458,699	161,065	346,089	182,877	163,212
平成23年1～3月	744,905	36,768	450,879	214,451	422,075	248,090	173,985
4～6	566,422	28,414	408,041	212,223	357,172	190,111	167,061
平成22年 5月	220,307	7,487	124,729	73,958	360,618	190,316	170,302
6	218,901	9,223	144,536	73,907	356,849	182,030	174,819
7	215,756	6,931	141,467	70,308	355,160	178,123	177,037
8	204,886	10,143	130,537	63,558	364,922	186,150	178,772
9	193,775	4,981	146,513	41,938	360,466	189,989	170,477
10	209,730	10,495	145,623	39,712	381,488	211,834	169,654
11	173,793	11,669	155,820	51,294	346,761	177,831	168,930
12	226,819	11,647	157,256	70,059	346,089	182,877	163,212
平成23年 1月	228,145	15,655	142,112	84,247	351,899	177,749	174,150
2	223,005	10,682	143,284	63,146	364,565	188,583	175,982
3	293,755	10,431	165,483	67,058	422,075	248,090	173,985
4	191,602	6,350	137,033	72,902	399,046	224,966	174,080
5	177,340	10,463	121,477	72,505	378,623	209,336	169,287
6	197,480	11,601	149,531	66,816	357,172	190,111	167,061
平成23年 7月	200,882	7,081	135,832	68,597	348,096	184,820	163,276
前年同月比 (%)	93.1	102.2	96.0	97.6	98.0	103.8	92.2

出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報

潤滑油製造業近代化事業 潤滑油の品質・認証に関する調査研究事業
潤滑油の品質に関する調査研究 - その 1

潤滑油の品質に関する調査研究（照合試験対象試験室の拡充）では、我が国の産業技術の向上とその水準維持に資することを目的に、平成 22 年度は、潤滑油製造事業所等の 55 試験室に試料を配布して潤滑油製品物性の照合試験及び二次作業標準物質の標準値決定のための照合試験を実施しましたので調査結果の一部を今月と来月の 2 回に分けて紹介致します。今月は、一般物性試験の照合試験結果について報告します。

1. 試料

一般物性照合試験試料の詳細を表 1 に示します。

表 1. 照合試験試料

区 分	試 料 名	種 類	グレード及び粘度分類	数量 (L)
一般物性照合 試験用試料	共通試料 10A	マルチグレード ディーゼルエンジン油	CF-4 10W-30	4

以下共通試料 A という。

2. 試験項目及び方法

表 2 に示す試験項目及び方法により、2 回試験を行いそれぞれの測定値を求め、室内併行精度と室間再現精度について調査しました。

表 2. 照合試験項目、認定書発行試験項目及び試験方法

試験項目		試 験 方 法	共通試料 A	
			照合試験	認定書発行
動粘度	40 100	JIS K 2283		
粘度指数		JIS K 2283		
塩基価	過塩素酸法 塩酸法	JIS K 2501		
酸価	電位差法	JIS K 2501		
引火点		JIS K 2265-4 (クリーブランド開放式)		
流動点		JIS K 2269		
密度	振動式 浮ひょう法	JIS K 2249		
元素 分析	カルシウム	ICP 法、原子吸光法 蛍光 X 線法他		-
	亜鉛	ASTM D 5185 (ICP 法) JPI-5S-38-03 (ICP 法) 他		-
	リン			-
低温見かけ粘度		ASTM D 5293 JIS K 2010 (附属書)		-
低温ポンプ吐出性能		ASTM D 4684 JPI-5S-42-04		-
高温高せん断粘度		ASTM D 4683 JPI-5S-36-03		-

は試験実施項目

3. 照合試験結果

照合試験の精度計算方法は石油学会規格、“JPI-5S-4-95 石油類試験法照合試験結果の精度計算方法”及び“JIS Z 8402-2 測定方法及び測定結果の精確さ（真度及び精度）- 第2部：標準測定方法の併行精度及び再現精度を求めるための基本的方法”を用いました。

(1) 共通試料 A の JIS 試験方法規定精度との比較

共通試料 A で実施した試験項目について、JIS の規定精度との比較を表 3 に示します。なお、繰返し精度及び再現精度をそれぞれ室内併行精度及び室間再現精度としました。

その結果、以下のようなことがわかりました。

室内併行精度については、動粘度（100 ）を除くすべての試験項目において、JIS 規定精度と比較して同等もしくは優れている。

全データによる棄却検定前の室間再現精度は、粘度指数、流動点、密度(浮ひょう密度法)の試験項目が F 検定で JIS 規定精度より劣っている。また、棄却検定の結果、動粘度（100 ）、粘度指数で棄却値が認められる。

棄却検定後のデータによる室間再現精度での F 検定結果は、流動点、密度（浮ひょう密度法）を除く試験項目で同等又は優れている。

各試験室の結果を平均値と比較した場合に JIS 試験法許容差から外れた試験室は、棄却された試験室を含めて動粘度（100 ）粘度指数、酸価、流動点、密度(浮ひょう密度法)の試験項目で認められる。

表 3. 共通試料 A の JIS 規定精度との比較

試験項目	試験室数	平均値	室内併行精度				室間再現精度				
			許容差から外れた		F 検定結果	棄却試験室数	許容差から外れた		F 検定結果	棄却試験室数	
			試験室数	比率(%)			試験室数	比率(%)			
動粘度 mm ² /s	40	44	74.85	2	4.5		0	0	0.0		0
	100	43	11.42	6	14.0	× ()	2	2	4.7	()	1
粘度指数	43	145	0	0.0		0	1	2.3	× ()	1	
塩基価 mgKOH/g	過塩素酸法	29	8.15	0	0.0		0	0	0.0		0
	塩酸法	30	6.50	0	0.0		0	0	0.0		0
酸価 mgKOH/g	35	2.10	1	2.9		0	2	5.7		0	
引火点	41	233	0	0.0		0	0	0.0		0	
流動点	37	-42.4	0	0.0		0	3	8.1	×	0	
密度 g/cm ³ (15)	全結果	49	0.8669	1	2.0		0	1	2.0		0
	振動式密度	39	0.8670	0	0.0		0	0	0.0		0
	浮ひょう密度	10	0.8664	1	10.0		0	1	10.0	×	0

F検定 JIS規定精度と比較して 有意によい 同等 × 有意に悪い
() は棄却後データによる

(2) JIS 規定試験項目以外の試験結果

共通試料 A の照合試験結果で JIS 規定試験項目以外の試験結果について、試験方法に規定されている繰返し精度（室内併行許容差）及び再現精度（室間再現許容差）を用いて精度計算を行った結果から以下のようなことがわかりました。

元素分析に関して、ここでは精度規定がある JPI 規格の“JPI-5S-38-03 潤滑油-添加元素試験方法-誘導結合プラズマ発光分光分析法”の許容差を用いて精度計算を行った。精度検定の結果、繰返し性については全元素で規定精度より優れている。また、再現精度については全データによる棄却検定前、カルシウムの項目でのみ規定精度より劣っていたが、棄却検定後は全元素で同等の結果である。

低温見かけ粘度(C.C.S.)については、測定温度を 25 とした。25 試験室から結果が得られ、ASTM D 5293 の規定精度と比較して繰返し性では規定精度より優れている。また、再現性においては、規定精度と同等の結果である。

低温ポンプ吐出性能に関しては、測定温度 30 とした。試験結果は、12 試験室のため精度計算を行わなかった。結果は平均値が 18,563 で、範囲は 17,700～19,300 のばらつきがみられたが、ASTM D 4684 の規定精度（34.1%）内である。

高温高せん断粘度の試験結果は、11 試験室のため精度計算を行っていないが、結果は平均が 3.40 であり、範囲は 3.30～3.47 である。

今回は、スペースの関係で詳細は紹介できませんでしたが、詳細につきましては「平成 22 年度潤滑油製造業近代化事業報告書」を御覧ください。

次号では、二次作業標準物質の標準値決定のための照合試験結果について報告する予定です。

協会の動き

標準試料委員会に参画

8 月 24 日（水）、26 日（金）に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「標準試料委員会」に参画しました。

2011 Powertrains, Fuels & Lubricants（京都）に参加

8 月 30 日（火）に京都テルサで開催された、SAE 主催による「2011 Powertrains, Fuels & Lubricants（京都）」に参加し、平成 21 年度環境事業の「潤滑油の新燃料対応事業」の成果について潤滑油新燃料対応分科会委員の西村 和雄 氏（日本ルーブリゾール株）が講演しました。

第 1 回 さび止め性能試験方法・耐荷重能試験方法 合同タスクフォース

9 月 2 日（金）に航空会館において、第 1 回 さび止め性能試験方法・耐荷重能試験方法 合同タスク

フォースを開催しました。議事内容は以下のとおりです。

- (1) 潤滑油協会 JIS 関連の活動概要について
- (2) タスクフォース主査選任について
- (3) 改正の進め方について
- (4) その他

第 65 回 潤滑油リサイクル対策委員会

9 月 9 日（金）に航空会館において、第 65 回 潤滑油リサイクル対策委員会（委員長：出光興産(株) 後藤 雅久 氏）を開催しました。議事内容は次のとおりです。

- (1) アンケート調査について
- (2) 普及媒体の改正について
- (3) その他

エンジン試験専門委員会に参画

9 月 16 日（金）に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「エンジン試験専門委員会」に参画しました。

JCMA 油脂規格普及促進協議会 油圧作動油運営委員会に参画

9 月 20 日（火）に（社）日本建設機械化協会において開催された、JCMA 油脂規格普及促進協議会主催による「JCMA 油脂規格普及促進協議会 油圧作動油運営委員会」に参画しました。

JIS K 2242（熱処理油）改定委員会に参画

9 月 20 日（火）に銀座プロッサムで開催された、全国工作油剤工業組合主催による「JIS K 2242（熱処理油）改定委員会」に参画しました。

お知らせ

中小企業海外展開支援パンフレットについて

この度 中小企業庁 新事業促進課より標記パンフレットが送られてまいりましたのでお知らせいたします。

詳細はこちらをご覧ください：

中小企業庁ホームページ 経営サポート「海外展開支援」関連ページ

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/census/index.html>

平成 24 年経済センサス・活動調査の実施について

総務省・経済産業省では、平成 24 年 2 月に、平成 23 年の事業所・企業の活動状況を明らかにするための「平成 24 年経済センサス・活動調査」を実施しますのでお知らせいたします。

詳細はこちらをご覧ください：

経済産業省ホームページ - 経済センサス - 活動調査関連ページ

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/census/index.html>

経済センサス 活動調査キャンペーンサイト

<http://www.stat.go.jp/data/e-census/campaign/index.htm>

微量 PCB 汚染絶縁油の無害化处理受付開始について（東京臨海リサイクルパワー株式会社）

微量 PCB 汚染絶縁油の無害化处理の受付が下記のとおり開始されましたのでお知らせいたします。

1. 受付開始時期 平成 23 年 9 月 1 日
2. 処理開始時期 平成 23 年 10 月上旬
3. 受入対象物
 - ・東京都内で使用中もしくは保管されている微量 PCB 汚染絶縁油
（東京都外の微量 PCB 汚染絶縁油、電気機器筐体やドラム缶等の容器および高濃度 PCB は受入対象外です）
4. 収集・運搬
 - ・荷姿は微量 PCB 専用タンクローリーでの運搬に限ります。
 - ・あらかじめ当社が認定した登録事業者のみ搬入可能としています
5. 処理受付窓口

処理をご希望される方は下記 URL をご参照ください。

<http://www.tgn.or.jp/tokyorp/pcb/pcbuketsukekaishi.pdf>

今後の予定

2011 JALOS 環境フォーラム

11 月 18 日 前掲

潤滑油製造業地方研修会（神戸）

11 月 25 日 前掲

JALOS 講習会「初級コース・車両用潤滑油」

12 月 1 日 前掲

潤滑油製造業地方研修会（名古屋）

12 月 2 日 前掲

JALOS 講習会「初級コース・工業用潤滑剤」

12 月 14 日、15 日 前掲

JALOS 講習会

「体験コース・油中異物分析と診断事例」

1 月 19 日、20 日 前掲

禁無断転載

発行日 平成 23 年 9 月 22 日

発行所 社団法人 潤滑油協会

〒273-0015

千葉県船橋市日の出 2-16-1

TEL 047-433-5181（代表）

FAX 047-431-9579

印刷所 株式会社みつわ